

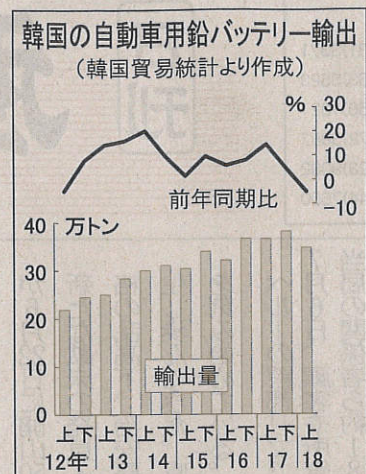
鉛バッテリー

韓国の輸出に頭打ち感

1-6月、6年ぶり減

韓国の自動車用鉛バッテリー輸出に頭打ち感が出てきた。同国の貿易統計によると、今年上半期（1-6月）の輸出量は前年同期比5.2%減の34万0197トと6年ぶりのマイナス。対日本を含め大量輸入していたリサイクル原料を加工して、製品輸出を伸ばしていたが、原料輸入の一服とともにようやく拡大路線に歯止めがかかりつつある。

「リサイクル貿易」変調



同国は鉛リサイクル原料の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛バッテリー）を輸入して、補修交換用の自動車用鉛バッテリー製品を輸出するリサイクル加工貿易のビジネスモデルを築き、2010年代を通じて輸出入と

もに拡大してきた。その高値買いの原料調達姿勢は各国の鉛リサイクル事情にも大きな影響を与え、日本国内でも廃バッテリーの深刻な調達難を招いていた。

韓国が廃バッテリーの対日輸入を急増させた12年から、バッテリー製品輸出増加が本格化し、半期ベースでは

17年下半期まで11半期（5年半）連続で前年同期比プラスが続いた。年間輸入で見ると、12年46万3520トから17年75万1807トへと62%増加。廃バッテリーとの交換貿易ルートを築いた米国やアラブ首長国連邦（UAE）向けを中心に伸ばした。

一方の廃バッテリーの17年輸入は49万6718トで、12年と比べて104%増。重量ベースでは5年間の両増加分がほぼ符合してお

り、製品輸出とともに伸びたことを裏付けている。今年上半期の廃バッテリー輸入は前年同期比10.2%減の23万1450トと、こちらもバッテリー製品の輸出一服と運動している。

製品輸出相手を国別で見ると、1位の米国向けの42.9%増の6万2094トに対して、2位のUAE向けは37.9%減の3万4867トと、大きく入れ替わった。3位の日本向けは1.8%減の2万6898ト。サウジアラビア向けは34.2%減の2万273トで前年3位から5位に後退するなど、中東向けの減販が輸出全体を押し下げている。

また、上半期の電気鉛輸出は前年同期比0.8%減の13万6339トで横ばい。製品から地金に輸出がシフト

しているわけではなく、同国の廃バッテリー輸入の純減がバッテリー製品輸出の純減にリンクしていると言える。

韓国の二次精錬業界やバッテリー業界は、能力増強を繰り返してきた。しかし、中東向けの製品輸出にプレッシャーがかかり、拡大路線の見直しが迫られそうな状況になってきた。

廃バッテリー仕入れの約2割を占めていた日本からの輸入が今夏止まる可能性が高くなっており、業界稼働率の維持のための原料対策も講じられそうだ。